

提言書

「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2025ー」に関する提言書

令和7年7月27日に開催されました「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2025ー」に於いて討議された意見を以下のとおり提言いたします。

大テーマ『住みやすいまち たじみ』

中テーマ『災害発生！集まりたくなる避難所をみんなで考えよう』

- 討議テーマ1 避難所ってどんな所？体験してみよう
- 討議テーマ2 だれでも安心して行くことができる避難所はどこ？
- 討議テーマ3 避難所生活であなたの支えになるモノはなんですか？
そしてあなたはどんなことなら手伝えますか？
- 討議テーマ4 どんなイベント・セミナーがあったら参加したいですか？

これらのテーマのもと実際に避難所の体験をしたことから、多治見市の備蓄品や備蓄量を知り、段ボールベッドの強度、簡易トイレの使い方、非常食など、正しい知識と認識を持ち、避難所に対し一様の安心感を持ちました。

また、市民は避難している人達が少しでも穏やかに過ごせるように、音楽やカラオケ・体操やストレッチなどの指導やゲーム、子ども達や高齢者の相手、ペットのお世話、洗濯や掃除、手話通訳などで手伝いができると考えていることがわかりました。

この体験をもとに市民が考える安心して行くことのできる避難所について、次のとおり提言いたします。

◎現在の備蓄品の見直しを求めます。

- ・避難所の規模に合わせた備蓄品の数の見直し
- ・個々の事情に合わせた備蓄品の見直し
(アレルギー対応、子ども用ミルク、大人及び子どものオムツ等)

◎避難所には以下のような場所を設置されることを求めます。

- ・個々のプライバシーに配慮された場所
- ・友人などと話せる場所
- ・子ども達が遊べる場所
- ・レクリエーションや体操など、体を動かすことが出来る場所・・・等

◎非常持ち出し品に心の支えになるものの周知を求めます。

避難所生活には物理的なものだけでなく、心の支えが必要だと考えます。そのため子どもの玩具・趣味のもの・リラックスできるもの・お菓子などの趣向品・ペット・ゲーム・本などの心が安らぐものも非常持ち出し品の一部として周知することを求めます。

◎避難所の運営に関する基礎知識は一部の人しか知りません。私達市民も運営にかかわるために、情報の周知を求めます。

避難所の運営は市民であること、備蓄品倉庫の鍵の所在、開所時間、ルール、マニュアルなどの正しい情報を知る機会を求めます。

◎今後、避難所生活をする事になった時のために、これまで行われている市域での防災訓練に加え、市内の企業や私達市民の協力を得て、以下のような取り組みを求めます。

- ・一泊二日の宿泊体験で、非常食や簡易トイレを実際に利用してみる。
- ・避難ルートを確認しながら歩くスタンプラリー
- ・市内の商業施設でのPR（防災グッズの展示・販売）・・・等

令和7年10月3日
たじみ市民討議会実行委員会
実行委員長 後藤 正則